

骨子案で指標が確定し、主観指標(市民意識)については、初期値を設定するため下記のとおりアンケート調査を実施

市民アンケート調査実施概要

調査期間 : 令和7年2月7日~2月21日
 調査対象者 : 福岡市内に居住する満18歳以上の市民2,000名(無作為抽出)
 回答数 : 802件(回答率 40.1%)

数値設定について

- アンケート結果の肯定的回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)の合計値を初期値に設定するとともに、より実態をあらわすため、肯定的回答のうち「そう思う」の数値を併記。
- 目標値については「増加」と設定し、計画期間中に1%でも高い数値となるよう施策を推進していく。同時に、行動や意識の変容に着目した計画であるため、「そう思う」の数値の変化にも留意していく。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計値。()内の数値は「そう思う」のみの数値。

	節	成果指標	現状値 【2024年度】	目標値 【2034年度】
重点施策	【行動変容】 環境行動を実践する まちづくり	1-1 日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合	90.9% (32.2%)	増加
		1-2 環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合	90.8% (51.5%)	
	【事業者連携】 環境経営を実践する まちづくり	2-1 環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合	76.8% (23.7%)	
		2-2 環境に配慮した商品やサービスを目にする機会が増えていると思う市民の割合	83.5% (34.0%)	
基本施策	【脱炭素】 カーボンニュートラルを 実装したまちづくり	1-1 市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合	52.2% (9.0%)	
		1-2 市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合	63.6% (14.0%)	
	【循環経済】 地球にやさしい 循環のまちづくり	2-1 市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合	69.2% (14.2%)	
		2-2 ごみや資源物が出しやすく、その収集や処理も適正に行われているまちだと思ふ市民の割合	84.0% (39.9%)	
	【生物多様性】 多様性にあふれた 自然共生のまちづくり	3-1 生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合	28.2% ※	
		3-2 豊かな水辺や緑に親しむことができる空間が維持・整備されていると思う市民の割合	70.8% (18.5%)	
	【生活環境】 安全で良質な 生活環境のまちづくり	4-1 生活環境(空気、水のきれいさ、静けさ、におい・かおり)の状況が良好だと思ふ市民の割合	75.9% (20.4%)	
		4-2 まちの景観が保たれ、ごみがない美しいまちづくりが進んでいると思う市民の割合	77.9% (20.6%)	
	【広域連携】 九州・アジアとつながる 環境協力のまちづくり	5-1 福岡市と近隣地域とが協力して、自然や生活環境が保たれていると思う市民の割合	66.5% (15.8%)	
		5-2 福岡市の環境技術がアジアや世界に貢献し、存在感を高めていると思う市民の割合	46.6% (14.0%)	

※今後の回答傾向を分析し、施策のインパクトを測っていく
 ※部門別計画の指標と併せて総合的に進捗管理を行う(次ページ参照)

※基本施策3-1の指標のみ、「理解して行動している」市民の割合を設定。(福岡市総合計画の実施計画「政策推進プラン」と同様の指標)

(参考)部門別計画との関連性

<基本的な考え方>

- ◆環境基本計画は、環境分野の総合的かつ長期的施策の大綱であるため、各分野を代表する包括的な客観指標と、めざすまちの姿に対する施策のインパクトを市民の実感で測る包括的な主観指標を設定し、主観・客観の両面で総合的に評価していく。
- ◆部門別計画においては、より細かな施策単位の進捗を測る指標を設定し、環境基本計画の方向性に沿って実施する様々な事業が与える効果について、環境基本計画・部門別計画あわせて進捗管理を行っていく。

環境基本計画 指標

		客観指標	主観指標
重点施策	行動変容		1-1 日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合
			1-2 環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合
	事業者連携		2-1 環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合
			2-2 環境に配慮した商品やサービスを目にする機会が増えていると思う市民の割合
基本施策	脱炭素	温室効果ガス排出量	1-1 市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合
			1-2 市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合
	循環経済	ごみ処理量	2-1 市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合
			2-2 ごみや資源物が出しやすく、その収集や処理も適正に行われているまちだと思う市民の割合
	生物多様性	絶滅危惧種等の確認種数	3-1 生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合
	3-2 豊かな水辺や緑に親しむことができる空間が整備・整備されていると思う市民の割合		
生活環境	大気・騒音・水質の各環境基準達成率	4-1 生活環境(空気、水のきれいさ、静けさ、におい・かおり)の状況が良好だと思う市民の割合	
		4-2 まちの景観が保たれ、ごみがない美しいまちづくりが進んでいると思う市民の割合	
広域連携	海外からの研修・視察受け入れや海外への技術協力等による国際貢献・協力件数	5-1 福岡市と近隣地域とが協力して、自然や生活環境が保たれていると思う市民の割合	
		5-2 福岡市の環境技術がアジアや世界に貢献し、存在感を高めていると思う市民の割合	

部門別計画 指標

脱炭素 CN

福岡市地球温暖化対策実行計画

<指標例(現計画)> ※R8年度改定予定

世帯あたりのエネルギー消費量

床面積あたりのエネルギー消費量

乗用車新車販売台数に占めるガソリン車の割合

再生可能エネルギーによる設備導入量

など

循環経済 CE

循環のまち・ふくおか推進プラン

<指標例(現計画)> ※R7年度改定予定

市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量

1事業者1日あたりの事業系ごみ処理量

リサイクル率

地域集団回収の利用率

など

生物多様性 NP

生物多様性ふくおか戦略

※現計画を改定し適切な指標を設定予定 (R8年度)

<今後>

部門別計画において、環境基本計画の**基本的な方向性**に沿って、**本計画の指標の向上につながる**指標を検討・設定する